

平成26年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について【学校版】

津山市立誠道小学校

<p>教育目標(めざす児童生徒像)</p> <p>心豊かで、自ら学び たくましく生きる児童の育成 目指す子ども像</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言える子</li> <li>・聞ける子</li> <li>・動ける子</li> </ul>	<p>今年度の指導の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・確かな学力と学ぶ力の育成</li> <li>・コミュニケーション能力の育成</li> <li>・未来を拓く力の育成</li> <li>・保護者・地域との連携</li> </ul>		
<p>調査結果について(調査結果において明らかになったこと)</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="203 504 1117 911"> <p>【学力状況調査の結果】</p> <p>全国</p> <p>国語Aについては、県平均と比べると正答率が高く、国語Bはやや低い。                      故事成語の使い方を理解している。(本校64.3%、岡山県43.7%)                      算数はA・B問題ともに、県平均と比べると正答率がかなり高い。                      作図に用いられている図形の約束や性質を理解している。(本校78.6%、岡山県54.1%)                      A問題がよくできていて、基礎的な力が定着していると言える。                      読書習慣が身につけていない児童は、少し難しい問題に対して無回答となってしまっている。                      算数Aでは、特に「数量や図形についての技能」が高く、17問中4問が100%正答できていた。                      算数Bでは、11問以上の正解者が半数近くを占め、しっかり問題に向かい合っていることがわかる。</p> <p>県</p> <p>国語は県平均と比べると正答率が低く、物語の読み取りや文法語句に関する知識が低い。                      社会は県平均並みであり、日本の文化はよく理解できている。                      算数は正答率が低く、簡単な四則計算はできるが、問題文を読み取って答えられていない。                      理科は県平均を下回っている。科学的な考察力が不足している。                      資料を基にして説明したり、論理的に考えを説明したりするなどの表現力・思考力に課題がある。</p> </td> <td data-bbox="1137 504 2029 911"> <p>【学習状況調査の結果】</p> <p>基本的な生活習慣がよく身につけていて、自己肯定感や規範意識が高い。                      保護者や地域が協力的で、学校や児童のことに関心を持っている。                      学校に行くのは楽しく、学校の出来事も家の人によく話している。                      「人の気持ちがわかる人間になりたい」「いじめは絶対にいけない」の質問に全員が「当てはまる」と答えている。                      家庭学習で宿題は必ずするが、自主学習や誤答問題の克服等はしていない。                      平日にテレビやゲームなどを1時間以上視聴する児童の割合は平均並みである。                      図書室や図書館を利用している児童の割合は高く、半数の児童が1日に30分以上読書しているが、読書が好きな児童の割合はやや低い。                      あいさつはよくできており、地域の行事にもよく参加している。                      新聞を読んだりニュースを見たりする児童が県平均と比べて低い。                      考えや解き方を説明したり、資料と関連付けて説明したりすることを苦手と感じている。                      難しいことや新しいことに出会った時、チャレンジする意識が低い。</p> </td> </tr> </table>		<p>【学力状況調査の結果】</p> <p>全国</p> <p>国語Aについては、県平均と比べると正答率が高く、国語Bはやや低い。                      故事成語の使い方を理解している。(本校64.3%、岡山県43.7%)                      算数はA・B問題ともに、県平均と比べると正答率がかなり高い。                      作図に用いられている図形の約束や性質を理解している。(本校78.6%、岡山県54.1%)                      A問題がよくできていて、基礎的な力が定着していると言える。                      読書習慣が身につけていない児童は、少し難しい問題に対して無回答となってしまっている。                      算数Aでは、特に「数量や図形についての技能」が高く、17問中4問が100%正答できていた。                      算数Bでは、11問以上の正解者が半数近くを占め、しっかり問題に向かい合っていることがわかる。</p> <p>県</p> <p>国語は県平均と比べると正答率が低く、物語の読み取りや文法語句に関する知識が低い。                      社会は県平均並みであり、日本の文化はよく理解できている。                      算数は正答率が低く、簡単な四則計算はできるが、問題文を読み取って答えられていない。                      理科は県平均を下回っている。科学的な考察力が不足している。                      資料を基にして説明したり、論理的に考えを説明したりするなどの表現力・思考力に課題がある。</p>	<p>【学習状況調査の結果】</p> <p>基本的な生活習慣がよく身につけていて、自己肯定感や規範意識が高い。                      保護者や地域が協力的で、学校や児童のことに関心を持っている。                      学校に行くのは楽しく、学校の出来事も家の人によく話している。                      「人の気持ちがわかる人間になりたい」「いじめは絶対にいけない」の質問に全員が「当てはまる」と答えている。                      家庭学習で宿題は必ずするが、自主学習や誤答問題の克服等はしていない。                      平日にテレビやゲームなどを1時間以上視聴する児童の割合は平均並みである。                      図書室や図書館を利用している児童の割合は高く、半数の児童が1日に30分以上読書しているが、読書が好きな児童の割合はやや低い。                      あいさつはよくできており、地域の行事にもよく参加している。                      新聞を読んだりニュースを見たりする児童が県平均と比べて低い。                      考えや解き方を説明したり、資料と関連付けて説明したりすることを苦手と感じている。                      難しいことや新しいことに出会った時、チャレンジする意識が低い。</p>
<p>【学力状況調査の結果】</p> <p>全国</p> <p>国語Aについては、県平均と比べると正答率が高く、国語Bはやや低い。                      故事成語の使い方を理解している。(本校64.3%、岡山県43.7%)                      算数はA・B問題ともに、県平均と比べると正答率がかなり高い。                      作図に用いられている図形の約束や性質を理解している。(本校78.6%、岡山県54.1%)                      A問題がよくできていて、基礎的な力が定着していると言える。                      読書習慣が身につけていない児童は、少し難しい問題に対して無回答となってしまっている。                      算数Aでは、特に「数量や図形についての技能」が高く、17問中4問が100%正答できていた。                      算数Bでは、11問以上の正解者が半数近くを占め、しっかり問題に向かい合っていることがわかる。</p> <p>県</p> <p>国語は県平均と比べると正答率が低く、物語の読み取りや文法語句に関する知識が低い。                      社会は県平均並みであり、日本の文化はよく理解できている。                      算数は正答率が低く、簡単な四則計算はできるが、問題文を読み取って答えられていない。                      理科は県平均を下回っている。科学的な考察力が不足している。                      資料を基にして説明したり、論理的に考えを説明したりするなどの表現力・思考力に課題がある。</p>	<p>【学習状況調査の結果】</p> <p>基本的な生活習慣がよく身につけていて、自己肯定感や規範意識が高い。                      保護者や地域が協力的で、学校や児童のことに関心を持っている。                      学校に行くのは楽しく、学校の出来事も家の人によく話している。                      「人の気持ちがわかる人間になりたい」「いじめは絶対にいけない」の質問に全員が「当てはまる」と答えている。                      家庭学習で宿題は必ずするが、自主学習や誤答問題の克服等はしていない。                      平日にテレビやゲームなどを1時間以上視聴する児童の割合は平均並みである。                      図書室や図書館を利用している児童の割合は高く、半数の児童が1日に30分以上読書しているが、読書が好きな児童の割合はやや低い。                      あいさつはよくできており、地域の行事にもよく参加している。                      新聞を読んだりニュースを見たりする児童が県平均と比べて低い。                      考えや解き方を説明したり、資料と関連付けて説明したりすることを苦手と感じている。                      難しいことや新しいことに出会った時、チャレンジする意識が低い。</p>		
<p>成果と課題</p> <p>睡眠時間・テレビやゲームの時間など、家庭での生活が安定している。                      自己肯定感や規範意識が高い。                      国語・算数ともに、基礎・基本的な知識・技能はあるが、活用型の問題を苦手としている。                      授業の中に学び合いを取り入れた成果が表れ、話すことへの抵抗感が減ってきた。                      長い文章を読むことに抵抗があり、文意を汲み取りながら読むこと、目的や意図に応じて複数の内容を関連づけて読むこと、文章の構成を考えながら読むことができていない。                      目的や意図に応じて必要な内容を適切に書くことができない。                      家庭学習で宿題以外の学習に取り組んでいない。                      読書をする児童としない児童の二極化が進み、読書への取り組み方が課題である。                      学力の二極化、低位の児童の固定化が課題である。</p>	<p>課題に対応した改善方法</p> <p>授業の中に、自分の考えを書いたり、まとめたり、説明したりするなどの書く活動を取り入れる。(書く)                      新聞や新しい文章に触れる機会を授業で増やし、要旨をまとめる活動を取り入れる。(書く)                      段階を追って読書活動を進め、語彙力や読解力を養う。(読む)                      ・学年必読書は全部読む。低学年には繰り返し音読をさせ、内容を理解できるようにする。読書カードの活用、読書活動に感想やあらすじ・紹介文などの書く活動を取り入れる。                      基礎・基本力の定着のため、チャレンジ学習に取り組む。(漢字・計算・読み取り)                      学力・学習状況調査の問題(特にB問題)を授業で活用する。                      必要に応じて到達確認テストを活用し、定着が不十分な問題については、繰り返し授業や家庭学習等で復習する。                      学力支援が必要な児童に対しては、放課後の補充学習を週1回行い、基礎力の向上と定着を図る。                      家庭学習に発展的な内容のものも取り入れたりと、自主学習で予・復習にも取り組ませる。</p>		
<p>取組の検証方法及び検証時期</p> <p>5・6年生対象に学力定着状況テストの実施(2月)・・・学力テストの問題の活用                      児童への学習・生活アンケート実施(学期1回)                      授業評価シート・生活アンケート活用(学期1回)                      読書数調査</p>	<p>達成目標(数値目標)</p> <p>3年生以上は全員が自主学習ノートを持ち、進んで取り組む。                      学力テストのB問題(過去問題)の正答率を5割以上にする。                      日々の読書を「読書カード」に記録していく。必読書20冊を必ず読む。(全員)</p>		